

現 状

【能力に関する改良目標】

(繁殖能力)

- 産子数などの繁殖能力の改良はあまり進んでおらず、目標の水準に達していないとともに諸外国に遅れをとっている状況

(産肉能力：産肉性、飼料利用性)

- 増体能力は向上、ロース芯や背脂肪については目標の水準程度
- 肉質評価の指標のひとつとして、筋肉内脂肪含量が注目されている。また、おいしさの指標となる食味成分の評価方法について検討が行われている
- 濃厚飼料の利用割合が大きい養豚では、飼料要求率が養豚生産の経営の安定に重要であるが、正確なデータの測定に多大な労力等が必要であるため、実際の改良形質として用いられることは少ない
- 肥育豚の増体能力の向上に伴い、出荷体重は上昇傾向

【家畜能力向上に資する取組】

(改良手法：遺伝的能力評価、SNP等)

- 全国統一的な遺伝的能力評価に向け平成29年10月より広域評価が開始。参加農場数は今後増える見込み
- 現在の改良体制は、国の機関・都道府県・民間がそれぞれ豚の育種改良を実施してきた。効率的な育種改良を目指し、純粋種豚改良協議会が設立。
- 一部で遺伝子解析技術を活用した改良が取り入れられ始めているが、広く普及しているとは言い難い状況

(飼養管理：アニマルウェルフェアへの対応)

- OIE指針に基づき、我が国におけるアニマルウェルフェアの考え方に対応した豚の飼養管理指針が公表

(飼養管理：衛生対策)

- 岐阜・愛知での豚コレラが終息しない中、より深刻な家畜疾病が侵入した場合、養豚経営に大きな影響を及ぼすこととなり、再生産が困難となる可能性
- 人手不足や環境問題により、規模拡大の停滞や規模縮小もみられている
- 慢性疾病(PRRS,APP等)が広く浸潤し、被害が生じている

課 題

【能力に関する改良目標】

(繁殖能力)

- 遺伝率が低く改良が難しい面がある中での効率的、効果的な育種・改良の手法、体制の検討及び普及

(産肉能力：産肉性、飼料利用性)

- 農場面積当たりの豚肉生産量の増加・コストダウン・増体能力の向上に対応する出荷体重の大型化
- 多様な消費者ニーズへの対応(消費・流通ニーズの的確な把握、消費者への訴求力の向上)
- 産肉データの信頼性を高めるための、直接検定等の頭数の増大の必要性
- 飼料利用性測定の推進

【家畜能力向上に資する取組】

(改良手法：遺伝的能力評価、SNP等)

- 広域的な遺伝的能力評価の精度向上のための血縁構築及び能力評価を活用した種豚の選抜・利用(共同利用含む)の推進
- 官民の連携強化、役割分担
- 優良な育種素材の有効活用
- SNP等の遺伝子情報を活用した改良の実用化に向けたデータの収集・分析と信頼性の確保

(飼養管理：アニマルウェルフェアへの対応)

- 我が国の飼養実態を踏まえた、豚の快適性向上への対応

(飼養管理：衛生対策)

- 飼養衛生管理基準の遵守徹底、農場HACCPの推進
- 各農場の経営形態にあった衛生対策の実施。経営者における防疫意識の向上
- 種豚生産者における衛生レベルの向上(統一)